

人口ビジョン（案）及びまち・ひと・しごと総合戦略（素案）に関する意見募集と結果について

1. 募集概要

- (1) 周知方法 : 9月1日号市報、市ホームページにて周知。
意見募集案内を市役所受付、企画調整課窓口、市政センターで配布した。
- (2) 募集方法 : 郵送、ファックス、電子メールまたは直接持参。
- (3) 募集期間 : 平成27年9月1日から9月15日まで
- (4) 応募状況 : 12件

2. 意見

	提出された意見	取扱い及び考え方
1	地方創生は、もともと地方の人口減少問題に対応するためのものであり、魅力溢れる地方のあり方を築くことです。東京、特に人口がこれからも増えていく武蔵野市が何を論じていけばいいのかわからない上、都市型の活発なまちと自然の多く住みやすい環境を作り上げてきた武蔵野市はこれ以上どのような役割を期待されているのかわかりません。	国の長期ビジョンでは、東京圏は日本のみならず世界をリードする国際都市としてますます発展していくことを目指す、と記載しています。また、武蔵野市人口ビジョン（案）においても、「本市の特性を最大限生かしたまちづくりを進め、他都市と連携し、魅力ある自治体運営を行っていく」と記載しています。
2	武蔵野市は他の自治体と比較して財政的にも中心市街地活性化の観点などのからも魅力的に見え、高齢者数は増加しているが出生率増加の推移などから将来的に人口は増えると予想されていますが、武蔵野市は今後何を創生していくべきなのかピンときません。	各自治体がそれぞれの強みを活かし、魅力を高めていくことが、地方創生の目指すべき将来の方向の実現につながると考えます。
3	人口ビジョンより、20歳～30歳程度までのいわゆる中間層の人口の確保への施策がないように思われます。また市全体の人口が増えすぎていることも懸念されていますが、武蔵野市まち・ひと・しごと総合戦略では、これらをどのように捉えていращやるのか教えていただきたいです。	生産年齢人口の減少は、本市にとっても大きな課題であると認識しています。子育て世代に対する支援や武蔵野市らしさのあるまちづくりを進めることで、まちの魅力を高め、若い世代を含めたすべての世代の人が武蔵野市を訪れたい、働きたい、住み続けたいと思えるような施策を実施してまいります。
4	現在、市の最上位計画である第五期長期計画の調整計画を策定中であるはずだが、本来はその策定を待って総合戦略も決定すべきではないか。	国は平成26年11月にまち・ひと・しごと創生法を制定し、地方にも、早期に「地方人口ビジョン」及び「地方版総合戦略」を策定し、施策を推進するよう求めているところです。本市においても平成27年10月中を目途に総合戦略を策定し、地方創生先行型事業を実施する予定です。 また、長期計画との整合性については、調整計画策定後に、総合戦略の見直しを実施することとしています。
5	地方創生は一自治体が各々策定して終わりにするものではないと考えるので、近隣市や東京都の総合戦略とも十分に調整してほしい。	本市の総合戦略は、国、東京都、近隣自治体の総合戦略を勘案して策定することとしています。国とは地方創生コンシェルジュを通じて相談しており、東京都については個別に意見交換を実施しているところです。近隣市とは、地方創生の勉強会を開催するなど情報収集を含めて意見交換を行っており、策定にあたっては整合性を図っていきます。
6	総合戦略の基本目標1だが、子ども分野ばかりで教育分野の取り組みが薄いと思う。保育園ばかりではなく、全児童対策にも力を入れてほしい。	ご意見を踏まえて検討します。

	提出された意見	取扱い及び考え方
7	総合戦略の基本目標のK P Iは、「増加」となっているだけでどれだけ増加させるのかよくわからない。具体的な数値目標を入れた方がいいと思う。	原則として数値目標を設定すべきと考えていますので、どのような数値目標が適切かを含め検討します。
8	基本目標2で地域住民（とくに高齢者）の足となるムーバスなどの交通事業の拡大整備を入れてみるのはいかがでしょうか。	ムーバスは、交通空白・不便地域を解消し、高齢者や小さな子ども連れの方などすべての人が、気軽に安全にまちに出られるようにすることを目的に運行を開始し、現在の7路線9ルートに拡大してきました。 今後の高齢社会の進展と武蔵野市の地勢的条件を念頭に、福祉交通サービス「レモンキャブ」や「つながり」のサービス充実を含め、各移動手段がスムーズに連携する交通環境の整備を推進します。
9	基本目標2の誰もがいつまでも健康な生活を送るための健康づくりの推進の中の、『「食」に対する市民意識向上への取り組み』と『就労支援の充実』について今の段階で、どのようなことを想定されていらっしゃるのか教えていただきたいです。	「食」については、高齢者の食生活の改善を図るために、市協力栄養士を講師とする料理講習会や地域栄養相談会等の事業を充実します。 就労支援の充実については、シルバー人材センターに対して、運営費補助や事業委託を行うことで、高齢者の就労機会の充実を図ります。
10	若者向けに武蔵野市の公共施設や特性魅力などもっと宣伝して公共施設の認知度上げるといいと思います。	本市では、公共施設の老朽化と更新に関する問題の解決に向けた検討を進めているところであり、幅広い世代にわかりやすく情報を発信するために、マンガという手法を取り入れました。今回は、包括的連携協力協定を結ぶ亜細亜大学の漫画研究会の皆様とともに制作しており、若い世代に対してもアピールできるよう努めています。
11	プレミアム商品券は地方創生につながるものなのかわかりません。	プレミアム付商品券は、地域経済の活性化を図るため、緊急経済対策として成立した国の地域消費喚起・生活支援型交付金を活用して実施されます。本市においても、「元気だせ武蔵野商品券」としてプレミアム付商品券を発行しています。 消費喚起効果の測定については、商品券を通じて行われた消費金額自体（直接的な消費喚起効果）と、それによってもたらされた消費誘発額の二種類の効果について調査する予定です。
12	国は地方が自ら考え、行動する自治体を積極的に支援していくと言っているが、プレミアム付商品券は「脱・横並び」と真っ向から矛盾する施策である。加えてバラマキであり、高所得者が多く住む武蔵野市では、他の地方自治体が行う同様の事業に比べても事業効果があるとは思えない。 武蔵野市は、「ゆるキャラ」「B級グルメ」「街コン」など、どこの市でもやっているような施策には安易に乗らないでいただきたい。	

※ご提出いただいたパブリックコメントを原文のまま掲載しています。